

第1回（平成20年度）習志野市経営改革懇話会 会議録

日 時 平成20年4月21日（月） 9：30～11：40

場 所 習志野市役所消防庁舎 4階会議室

出席者 （委 員）根本委員(会長)、服部委員(副会長)、浅海委員、井手委員、太田委員、
大部委員、岡崎委員、小泉委員、鈴木委員、高師委員、田久保委員、
竹田委員、吉村委員 計13名

〈五十音順 会長・副会長を除く〉

（市 側）荒木市長、島田副市長、石井企画政策部長、本城総務部長、
橋本財政部長、吉川経営改革推進室長、岡澤市民協働推進課長

〈記録：経営改革推進室 高田・越川〉

傍聴者 1名

【次 第】

1. 委嘱状交付
2. 市長あいさつ
3. 委員紹介
4. 会長及び副会長選出
5. 開会
6. 報告 別紙資料
 - (1) 習志野市の現状
 - (2) 「自治体経営」の基本的な考え方
7. 議題
 - (1) 自治体経営について
8. 次回開催予定等
※次回第2回会議開催予定 7月上旬
9. 閉会

委嘱状の交付

〈市長から各委員に委嘱状を交付〉

委嘱状 習志野市経営改革懇話会委員を委嘱する。期間は平成20年4月21日から平成23年3月31日までとする。

平成20年4月21日 習志野市長 荒 木 勇

市長あいさつ

市長 みなさん、お早うございます。今日は、お忙しいところ、習志野市が新たに設置いたします「経営改革懇話会」にお集まりいただき誠にありがとうございます。皆様におかれましては、委員をお願いしたところ、快くお引受けいただき、心より感謝申し上げます。

今日は、習志野市がこれまで取り組んできた改革を、一歩も二歩もステップアップし、市民の皆さんが、習志野市に住んでいて、本当に良かったと思える都市にしていくために、「自治体経営」という視点から、改革を進めて行くにあたり、市民の視点から、あるいは、企業経営の視点から、さらには、これまでの知識、経験を活かした視点から、私に対して様々なご意見、ご提言をいただく組織として設置をいたしました「経営改革懇話会」の第1回目の会議でございます。

それでは、会議に先立ちまして、私が胸に抱いております「経営改革」への思いを、若干述べさせていただきますと思います。振り返りますと、平成8年度に、私の直属の組織として、行政改革本部を設置して以来、これまで本市では財政状況の健全化を図るために、多くの改革・見直しに取り組み、平成20年度予算時点では、財政健全化の効果額が、約76億5千万円となっております。大きくは、内部管理努力として、人件費の削減により、約52億円、また、市民の皆さんの、ご理解をいただく中での事務事業の見直しにより、約24億5千万円であります。これらの取り組みを着実に実行してきた結果、三位一体の改革による地方交付税の削減などにより、地方財政の悪化が急速に進んできた今日においても、本市の財政状況は、市民や議員の皆様の改革に対するご理解、ご協力、あるいは職員一人ひとりの努力により、様々な困難を乗り越え、他市と比較してもそれほど悪化した状況ではないものと考えております。このようなこれまでの行財政改革の実績を踏まえた上で、私としては、これからの習志野市のまちづくり、将来設計を考えたときに、今までのような歳出削減を中心とした、縮小均衡型の改革だけではなく、もっと前向きな、財源の確保、資産の有効活用、人材育成、民間活力の活用などの、創造的、発展的な改革にも、積極的に挑戦していかねばならないと考えております。勿論、これまでの財政健全化の努力は怠ることなく、積み残しとなっている事業の仕分け作業や、定員管理、正規職員と臨時職員の役割分担、そして、集中改革プランの目標の達成に向けて、全力を挙げて取り組んでまいります。

一方、こども園構想の検討が本格的に始まり、また、JR津田沼駅南口特定土地区画整理事業が開始するなど、本市のビッグ・プロジェクトも動き始めております。私は、この機をチャンスと捉え、市役所内部だけの改革に留まらず、習志野市全体の底上げ、発展のために、市民、NPO、ボランティア団体、企業、大学など、あらゆる分野の多くの方々と、行政が一体となって、公民連携による協働のまちづくりを進め、これまでの行政改革から、一歩も二歩も、ステップアップした「自治体経営」の視点から、人、予算、資産、情報といった経営資源を組み合わせ、相乗効果を生む、プラスの改革を進めていきたいと考えております。「自治体経営」の良し悪しの判断は、民間経営の尺度である「利益」で計ることは困難ではありますが、「経営目標の達成のために、経営資源を適切に投入することにより成し遂げること」ができたかどうかにより、判断していくことが必要であると考えております。従いまして、これからの習志野市の経営改革においては、民間経営のノウハウや発想を取り入れ、前向きで、積極的な改革を推進してまいりたいと考えています。

本日開催いたします、第1回経営改革懇話会は、このような私の強い思いを実現していくための第1歩の会議であります。任期は3年間でございます。懇話会の委員の皆様におかれましては、

是非とも活発な議論を行っていただきたいと思います。

なお、私のこのような思いを実現させていくために、平成20年度の機構改革において、経営改革推進室と市民協働推進課を設置いたしました。この二つの課を車の両輪として、習志野市の自治体経営改革を進めていきたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、ご意見、ご要望がある場合には、いつでもこの二つの課に申し出ていただきたいと思います。

最後になりますが、私は常々、習志野市民がひとつの思いを共有し、そしてまた、市民が元気になって欲しい、自慢できるようなものが欲しいといつも考えております。例えば、若者たちが、全力で何かを目指して努力する姿というものは、見る者に大きな共感と感動を呼び起こします。そこで、私は、習志野高校の野球部が、過去2回の甲子園の全国制覇を成し遂げておりますので、近い将来に第3回目の全国制覇を実現して欲しいと願っております。ぜひとも、懇話会の委員の皆様も応援をよろしくお願いいたします。

以上、習志野市の改革を、新しい「経営」という観点から推進していくために、外部の視点からのご意見、ご提言をいただく組織である「経営改革懇話会」の第1回目の開催にあたり、あいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

委員紹介

〔事務局より、委員及び職員を紹介〕

会長及び副会長の選出

〔委員の互選により、会長に根本委員、副会長に服部委員を選出〕

開 会

〔会議の公開・非公開について議決し、本会議は原則公開とすることを全会一致により決定〕

報告（1）習志野市の現状 及び （2）「自治体経営」の基本的な考え方

〔別紙資料に基づき、習志野市における現状及び「自治体経営」の基本的な考え方について事務局より説明〕

議題（1）「自治体経営」について

会 長 時間もだいぶ経過しているようですが、ぜひ、今日は全員の皆さんの意見をお聞きしたいと思っておりますので、単純に割り算をすると一人3分で、あと5分後にはスタートしないといけません。今の報告のわからない点や数字が違うなど、ご質問があればお願いします。この間、ご自分の意見を3分間にまとめておいてください。超過すると他の方に迷惑がかかりますので、今日のところはコンパクトにまとめていただき、必要があれば事務局に申し出ることができるようにします。

委 員 推進体制についてですが、推進体制の図では経営改革推進室は、副市長直属の組織になっていますが、私が情報公開コーナーで4月1日の人事異動を見たところ、財政部の中に経営改革推進室がありました。財政部が悪いといっているのではなく、企画政策部でもダメだし、総務部にあってもダメだし、これは市長直属、あるいは副市長直属の体制でないとダメだと思っていたのですが、今日、初めて体制図を見させていただいて、本当にこれでやるのですねということをお聞きしたいのです。

財政部長 考え方としては変わっていないのです。財政部というのは所属の職員の給与であるとか、出張

であるとか、人事管理面が必要でありますので、一応、組織上はそのようにつけてあります。しかし、そこで動かそうとする今のようなソフトの部分は、企画、財政、総務というような総合的な副市長の直轄の組織をつくるということですが、どうしても都合のいい組織図というのは、役所の規則にはないものですから、便宜上、人事管理上、財政部に位置づけているというイメージでご理解いただきたいと思います。

委員 実質的には副市長直属ということですか。

財政部長 そうです。

委員 エンジンを動かすのは、市長、副市長です。財政部長は直接指示しないということですね。わかりました。

会長 非常に専門的な用語が出てきたので、わかりにくかったかなと思いますが、私の印象では、歳入も改善されている、歳出も硬直化はしているが改善されてきていると、かなり良い状態との報告だったと思いますが、そういうことでは、改めて経営改革を推進することもないように感じます。必要性が十分伝わらなかったと思います。今はいいけれど、将来、特に問題があると思われるものがあれば、ここで提示していただきたいと思います。

事務局 先ほどの歳入、歳出の構造の説明の中で、歳出の削減を進めていく中で投資的経費を抑制してきたことで、3点ほどあげたいと思います。投資的な経費の抑制で債務の返済は進んだのですが、そのことで、施設のリニューアルや老朽化対応など手薄になってきています。市民の皆さんはこういった施設を利用されるわけですから、どうしたらいいか考えていきたいと思います。職員数については、まだ、人件費比率が高い、サービスを提供するためにはマンパワーが必要ですが、マンパワーの提供の仕方について、正規職員でやっていくのか、あるいは臨時職員の方にやっていただくのか、その事業自体を民間に任せるのか、こういったことの整理をしていきたいと思います。これが2点目であります。3点目としましては、今取り組んでいます集中改革プランというものがありますので、着実にやっていくためにいろいろ意見をいただきたいと思います。

これからのまちづくりというのは、市民と協働で行うとともに、市が持っているいろいろな財産と組合わせて、市民の方々やボランティア、大学、企業の方々と協働で進めていくためにはどうしたらいいのか、こういったことについてご意見をいただきたいと思います。

会長 今、3点お話いただきましたが、いままでの行革の取り組みを拡充していくことと、ハードにはお金をかけずにきたけれども、それによってサービスの源泉である施設がかなり老朽化していて、ある時点で一斉に更新していかなければならないが、今の財政状況では踏み出せないということでした。それでは一人3分をお願いします。

委員 人件費比率が全国ワースト何位というところから、ずいぶん改善してきたなと感じました。これは、行政改革懇話会の意見がずいぶん反映されてきた結果なのかなという感じがします。しかしながら、人件費比率が改善したのは、パート等の比率が高くなったからだと思います。つまり、市の仕事は数多くあって減らせない、この辺を能力のある団塊の世代が退職する中で、このような人たちをいかに取り込んでいくのが大事なことになってくると思います。それと私は社会教育の関係に携わってきました。子供たちの健全な育成のために活動しておりますが、20年ぐらい活動が続いていまして、ずっと同じ形で続いています。10年や20年という節目のスパンに分けて、その仕事をどのように分担するのか見直す時期に来ているのではないかと、そういうところに踏み込まないと、補助金等の削減につながっていかないのではないかと感じがしています。習志野市の現状に関する表やグラフを見せていただきまして、そういうことへの発言をしていきたいです。

委員 昨年まで習志野青年会議所で理事長をやらせていただいております、まちづくりをやっている団体の責任者をやっていました。いろいろな形でまちづくりにかかわってまいりましたが、お金をかけてやることやマンパワーの話がありましたが、活動の中で市民の中にもいろいろな意見を持った方がいるという実感を持ちました。一例としまして昨年度、青年会議所で市民討議会という手法で、ポスト議会を開催しました。習志野市にご協力いただきまして、無作為抽出で参加者を募集して25名の方にいらしていただき、子育て支援について議論をさせていただきました。ここにいらしている方は意識の高い方だと思いますが、普段意見を言う場がなかった人でも、非常にいい意見を持っている方がたくさんいらっしゃるのです。素人ならではの考え、専門家ではない方だからこそ発想できるような斬新な考えを持っている方が、市内にはまだまだ、たくさんいらっしゃるのではないかと感じました。そういった人の意見を取り上げられる場、ここもその1つだと思いますが、そういった場をつくっていくことで、魅力的な市、まちがつけれるのではないかと考えております。

委員 先ほどの説明で、以前より歳入がよくなり、歳出が抑えられたとの説明でした。この中で経営資源という言葉が出てきました。果たしてこれからの自治体経営の中で経営資源とはどういうものか考えていかなければならないと感じました。民間企業であれば、人、モノ、カネ、情報という4つが経営資源となりますが、これを行政に置き換えた場合、やはり経営というのは同じ、人、モノ、カネ、情報だと思います。この具体的な対象を、この会議の中で考えていかなければいけないのではないかと感じています。

委員 本日説明いただいた資料は実にわかりやすかったです。今の習志野市の状況が網羅されていたと思います。その中で、1つ、市の債務残高がまだまだ多いような気がします。説明のあった債務残高の推移では、平成9年度に比べ18年度末までに174億円の大幅な減少をしたと書いてありますが、習志野市の18年度決算における歳入規模が426億円で、その時点の借金は、下水道事業の地方債残高を含めると890億円ありますから、企業でいいますと、売り上げ426億円に対して借入金890億円と、倍以上ある訳で、とても成り立たない水準です。下水道事業分を除いても、約530億円の借金ですから、大変な水準です。この元金と利息に対して、年間予算額の11%を使っています。できることなら、もっと減少の方向に向かっていくのがいいと思います。それには、歳入の増加のための財源確保策を考えなければいけない。市の遊休資産を売却する、税の徴収率を上げるなど、いろいろ方法はあろうかと思いますが、今後の会議の議題になろうかと思いますが、将来にわたって、より一層借金を減らして、市の将来の財政負担を軽減する方向に向かっていただきたい。次の会議への注文ですが、現在進行中のビッグ・プロジェクトとして書かれている、JR津田沼駅南口周辺開発、小中学校の大規模改修事業、こども園構想などの取り組みは、実によいことと思いますが、その中で、JR津田沼駅南口周辺開発については、26年度までの、歳出と歳入がわかる資料をいただきたい。あの土地は調整区域を外れて、市街化区域になりましたが、固定資産税は上がると思いますが、この次までに資料として出してくださいとありがたいと思います。

事務局 次回までにそういった資料をご用意させていただきますが、事業の性格上、26年度までは開発中心になりますので、その後、住民が住むようになってきて、税収が増加してくることになりますので、もう少し長いスパンで全体像を説明できるようにしたいと思います。

委員 私は昭和36年から市内の小・中学校と教育行政に関わってきましたが、今のお話の中で知らないことがありました。また、教育関係の件費が高く、硬直化しているというご説明がありましたが、教育に関わってきた立場から言いますと、そのおかげで非常に効果をあげております。

最近、平成20年度から26年度までにわたる新しい教育基本計画をつくりましたが、作成に当たって、平成13年から5年間の数値的評価を各教育分野で実施いたしまして、学校教育でも生涯学習でも、他市と比べても高い教育レベルを示し、ほぼ目標を達成しているということがわかりました。平成20年度から22年度についても、実施計画の中に評価計画を立てております。そのようなことから、「硬直化」という言葉にちょっと引っかかりを感じました。しかし、このように長く市の中にいるのに知らないことがあったというのは、私自身の考えが硬直化しているのかな、と考えまして、これから勉強させていただきたいと思っております。

会 長 どのようなことが知らなかったことですか。

委 員 開発の歴史や人口動態などです。特に、財政が良くなったり、悪くなったりといった状況については、学校の予算もきつくなったり、緩やかになったりして、なんとなく感じてはいても、表等を用いてきちんとお話いただいたのは初めてのような気がします。

委 員 経営については、会社を経営した経験もなく、考えたりしたことはなかったのですが、いろいろご説明いただいた中で、習志野市の経営課題というのは、特に人件費の問題だと思えます。企業におきましても人件費は大きな問題でありまして、私どもの部署も一時、正社員の比率が低下したときもあり、技術や試験検査にかかる知識の継承が課題になりました。最近では会社も方針を変えて、正社員の人数も増えましたが、人件費の削減は派遣社員やパートを増やせばいいということではなく、今の品質を落とさずにコストを削減することが重要です。初めて参加させていただき、日常生活の中でも他の市民の方の意見を聞くことがありませんので、今回参加させていただいて、勉強させていただきたいと思えます。

委 員 同感ですが、今日の説明では、歳入は良好である、しかし、歳出が多いのは文教住宅都市憲章のせいであるというように聞こえるわけです。もうひとつは市民ニーズが多様化していて、これに対応しなければならないというテーマがある、ここで市が考えているのは、小さな政府を目指そうということです。でもその前に、前からの疑問なのですが、足りない歳入の中でそこそこの市民サービスをする最低の形というのはどういう姿になるのかということ、まず、はっきりさせていただきたいといつも思っています。特に第3次行政改革大綱の中で、今後の行政のあり方で、選択と集中があげられています。どういう風にしていくのか、420億円で16万の人口に対応していくという複雑系で仕事をするのは大変なことだと思いますが、先ほどの説明の中で、経営改革の課題があげられていますが、事業の仕分けは前からあげられています。そこを徹底して行い、本当に行政にどういうことをやらせるのかははっきりさせていただかないと、われわれとしては議論がしにくいと思えます。

会 長 市民の立場から逆に提示することはありますか。

委 員 タ張市があのようなことになって、どういう風になるか。われわれは素人ですので、プロの方からこういう風になるとお示してほしいです。今、事業の仕分けをしていますが、もっと客観的にやらないと、内部でやっていたのではわからないのではないかと。改めてやっていただきたいと思えます。

会 長 仕分けの過程における市民参加ということですね。事務局は今の意見に対して何かありますか。

事務局 小さな政府を目指したときに、市民に提供できるサービスの水準はどの辺にあるのかということとかを示してほしい、そして、その財源の確保はどうなっているのかということだと思います。それについては、数字的に示すのは難しいのですが、収入をどれだけ確保できるのかということと、その収入を使ってどれだけ、市民の皆さんにサービスが効果的にできるのかという兼ね合いですので、この水準であれば、いいというものではないので、一概にこれとこれ、という風に

うのは難しいと思いますが、できるだけわかりやすく示すように、これから整理をしていきます。

委員

4年ほど前に退職しまして、香澄で隠居生活を送っています。良寛の考えに共鳴しております。香澄の中で花鳥風月と子供相手にしております。特にこの半年は、小学校前に立って子供たち相手に挨拶をしています。良寛さんは子供相手に遊んでいましたが、最近の子供は忙しくて、孫にしましてもなかなか遊ぶ時間がとれません。良寛さんは才能がありましたが、私の脳の老化が早まるのではなかと懸念していたところ、こういう話をいただきまして、参加させていただきました。そこで、事務局からいただいたたくさんの資料を読ませていただいたのですが、平成13年度から行政改革懇話会で審議されてきたようですが、これが今回どうして、行政改革から、経営改革懇話会に名前が変わったのか、そこのところが良くわからなかったのですが、先ほどの説明がありましたが、まだ、わかっていません。

私は海外でいろいろ事業をみておりましたので、民間での経営というのはモノを作って、いかにたくさん売って、収入を得るか、一方で出ていく費用を削って利益を上げるかその一点だけなのですが、行政の場合は先ほど市長から話がありました。資料を拝見すると支出の方を切り詰めようというのは非常に一生懸命やっていますが、いかに身入りを増やすかの視点がまったくないです。入ってくるのは住民税や固定資産税ですか、それ以外に気がついたのがあったのですが、JR津田沼駅の開発であれだけお金をかけている計画がありますが、どれだけの効果が上がるのか、まったく見えません。7000人ぐらい入ってきて、住民税、固定資産税が入ってくると思いますが、子どもはそういうところを知りたいと思います。経常収支の比率を下げましょうという話がありましたが、下げて残りの15%はどこへ使おうとしているのか、ぜんぜん見えません。借金の話がありましたが、国の借金の800兆円に比べれば習志野の900億円は、人口から見れば少ないです。心配していません。企業経営でしたら、必要だったら、借りればいいのです。積極的にやるのであれば僕はそれでいいと思います。

委員

行政改革懇話会の最後の2年間をやらせていただきまして、行政についていろいろ勉強させていただきました。今日はじめて自治体経営に関する基本的な考え方を拝見しまして、大体、おっしゃられていることが私の考えと一致しています。先ほどの意見にありましたが、私もなぜ、行政から経営に変わったのか考えましたが、私の最初の結論は基本的にやることは変わらないのではないかと思います。今までの行政改革懇話会でやってきたことと変わらないと結論付けています。ただ、経営という名前がついている以上、今まで以上に、民間の経営手法をどんどん取り入れて、行政の効果把握に努めていかなければならないと思いますし、新しい提案をしていくのではないかなと思っています。行政の問題点も整理されておりましたが、これ以外にもいろいろあると思います。ただ、習志野市というのはいろいろな経営手法を他の市に比べて既に取り入れています。行政評価制度、考課型人事制度、職員提案制度といろいろ取り組んでいますが、魂が入っていないです。成果がでないです。ここに問題があります。今回経営改革懇話会でやっていくことは、集中改革プランを徹底的にやればとりあえずはいいのではないかと思います。その中に私が今からいうキーワードが入っています。これをキーワードにして集中改革プランを徹底的に進めたいと思います。キーワードは、意識改革、情報開示・情報公開、進行管理。この進行管理は民間企業に比べて行政は本当に弱いというか、やらないのは、PDCAサイクルのCとAです。チェック&アクションをほとんどやりません。平成18年度の集中改革プランのチェックを私自身もしましたが、ほとんどやられていません。3つのキーワードを徹底的に進めて、行政の運営のあり方を議論したいと思っています。次回できるかどうかわかりませんが、集中改革プランについて、18年度、19年度終わりました。2年間終わりました。18年度の結果については、

昨年度、行政改革懇話会の最終の回にもりましたが、中途半端です。19 年度も含めてわれわれ委員や市民がわかるようにしていただきたい。いまだに情報公開していないところが問題点です。ですから、集中改革プランの進捗状況をわれわれも把握して、課題を整理して、集中改革プランの見直しを進めていきたいと思ひます。委員からいろいろな意見を出し合つて、いい習志野にしたいと思ひています。

委員 今、ご説明を伺つた中で、市の運営の目的は市民へのサービスや教育ということですが、これらは手当てを厚くすればするほど、お金がかかります。そういう矛盾をはらんでいるのが市の運営だと思ひます。市として企業努力を行つてきて、その中には職員の意識改革も進めなければならないというのがあります。市民の立場といたしまして、市民の意識改革も必要であると思ひます。今、問題になっている後期高齢者医療制度も問題があると思ひますが、納得できる制度でもあるのです。これから高齢化社会になっていって、自分たちのことも少しは負担しなければいけません。今までは、行政に依存するといふか、なんでもかんでもやってもらうといふのが当たり前になってきていますが、少しは自分たちでも負担するといふことは、ほとんどの方がこの時代ですから納得しています。後期高齢者医療制度の問題点といふのは、国からの説明があまりにも遅すぎて、私たちに浸透しないうちにスタートしてしまつたことです。市としてもこの懇話会を3年間続けるということですが、市民への協力、意識改革を、ホームページや広報だけでなく、先ほど市民にはいろいろな人材がいらつしゃるといふお話でしたが、草の根のところから皆さんに協力を願う、意識を改革するといふところを一緒に進めないとなかなか難しいのではないかなと感じました。

委員 私は、まちづくり会議関係の立場であります。市がこれだけ人数を減らしますと行政のマンパワーは大変落ちていき、行政の方は大変お忙しいといふのが大変よくわかっています。一方で行政組織自体はこのように行政改革をやるといふのであれば、市民といふか、町方の組織を見直すべきだろつと思ひています。まちづくり会議の原型も昭和43年にできて、連合町会といふいろいろな組織があります。市が対応している町方の組織を開放して、43年から徐々に増えていくまちの姿がありますので、もう一回仕組み等を見直して、あり方を全部変える。市民協働推進課ができたと思ひますが、ここで市民との対応を全部考え直して、今までの地域のリーダーとの関係を見直して、もっともっと町方の住民が自由に参加できるような仕組みを考えていかないと、協働といふような考えは絵に書いた餅になってしまうと思ひます。行政がやっても無理ですから、この懇話会で結論を出して、市はここで決まつたのだからとある面では押し付けていくことが重要かと思ひます。そういう意味で、次回の懇話会では、ご存知ない方もいらつしゃると思ひますので、まちづくり会議の区分け、連合町会の区分け、どの課がどういふ組織に対応しているのか、どんな補助金があるのかなど整理して出していただくと良くわかると思ひます。補助金がかんばらばらに出てきます。ザルの目からこぼれるように補助金を出して、本当に活きているのか。町方ももらった補助金で対効果費のようなものを評価していく仕組みをつくらないと、協働は絵に描いた餅のようなものになってしまうと思ひます。

会長 新しい市民参加の仕組みといふのはありますか。次回以降お出しただければと思ひます。

副会長 冒頭、市長からこの懇話会について話がありましたが、僕なりにまとめてみますと、いままでの行政改革懇話会の積み残しの部分、たとえば、職員数がこれだけ減つてきている中で、仕事量が多くてまいつてしまつていることだと思ひます。定員管理と定数条例の問題だと思ひます。長い目で習志野市を見た場合、地方分権、都市間競争にどのように打ち勝つていくか、それには新しい財源をどのように確保していくか、あわせてそれをやるには習志野市の人口構成、土地利用

関係をどう図っていくべきかです。人口構成で高齢化が進み、若い人が減っていく中で、生きのびていくためには、やはり人口構成と土地利用の問題が出てきます。また、職員数がこれだけ落ち込んでくると、民間委託という問題が出てきます。その民間委託をするにも、今までと変わって、職員のコスト意識をどれだけ持たせていくのか、徹底させていくことがどれだけできるのかだと思います。市長も言われましたが、締めるだけではダメだと思います。習志野市の今日の財政状況をみると、職員だけ減らしてきたので、事務事業の見直しは手薄だったと思うのです。事業の仕分けを重点的にしなければならないと、非常に苦しい状態に落ち込んでいくと思います。みんなで知恵を出しながら、よりよい習志野にしていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

会 長 皆様のご多大なご協力によりまして、時間内にぎりぎり収まりました。ありがとうございました。あえて総括はいたしません、ひとつ事務局の方をお願いしたいのは、集中改革プランに関するやや詳細な資料をお出してください。もうひとつ難しいと思いますが、長期の財政展望をお示しいただきたい。JRの津田沼駅南口開発だけでなく、全体の状況を概括でいいので入れた形をお願いします。程度問題だと思いますが、数字が入らないと議論ができないと思います。

先ほどの人口の説明で、25歳から35歳の層が社会増で増えているとの話がありましたが、そこが新しい実入りの源泉になると思いますので、それが一過性なのか、これからも続くのか、その辺の戦略があると思いますので、入れてください。3点目ですが、皆さん異口同音におっしゃったのが、職員の意識改革をどのようにやっていくのか、これは組織をつくれればそれでいいというのではなく、もう一段の具体的なアイデアが必要かなと思います。最後に4点目として、新しい公共の説明はわかりやすかったと思います。行政に一方的に投げるのではなくて、市民ができることは当然やって、できないことを税金を払って行政職員を雇っているわけです。だから、納税者としての自覚を持つともっと行動する時の市民参加や民間提案のあり方を、各委員の立場でご意見を、市への宿題というか、委員の皆さんの宿題として認識をいただいて、ご意見をいただければと思います。最後にもう一言言いたい方がいらっしゃるとはと思いますが、本日はご勘弁をいただいて、次回以降効率的な運営に努めたいと思います。

閉 会

市 長 一言お礼を申し上げたいと思います。貴重なご意見をいただきまして、経営とはいったいなんだろうか、行政改革をきちんとやればいいのかとの意見もあります。私は新しく当選させていただいてから、ずっと、考えさせていただいていたのですが、懇話会をどのように位置づけて、この4年間をどう位置づけようか、考えておりました。従来どおりの改革だけでは、やはり新しい時代の展望の中で、いかながなものかという感覚を強く持ちました。習志野の有効資源をいかに活用して、地球規模的な都市間競争を迎えている昨今、もっともっとステップアップするそういう展開を、この3年間できちんとやれるよう、強い私の思いがあるわけです。私の思いに対して、委員の皆様から大体同じようなご意見を頂戴したわけでございます。私も、副市長もできるだけこの会議に毎回出席させていただいて、私の考え方も披露させていただき、後年振り返ったときに、あの3年間で習志野は本当に変わったよねと多くの市民に認めてもらえるような、懇話会にしたいなと思いますし、一生懸命努力しますのでよろしくお願い致します。

会 長 それではこれで終了いたします。ありがとうございました。